

第5章 American T の法則

前章では、リエゾンのトレーニングをたっぷりとしていただきましたが、いかがでしたか？ まだ足りませんか？ え？もう十分(笑)？ そういわずに、もう少し一緒に続けましょう。

この章では、日本人には最も苦手なリエゾンである「T 音のつながり」について学んでいきます。アメリカ英語特有のリエゾンです。このリエゾンの習得なくしては、英語を話せるようになるのは不可能とも言われている大事な法則を、身につけていただきます。

「American T」とも言われるこの法則は、大きく分けて5つあります。アメリカ英語独特の「T 音の変化」が5種類存在するのです。イギリスやオーストラリアにはこの法則はほぼ存在しません。というのも、私も長年英語に携わり(20年以上)、アメリカ英語を主として学んできたので、この「American T の法則」が身体に染み付いています。そのせいでイギリス英語やオージー英語が多少苦手になったくらい(笑)、この法則は影響力があります。存在感もあります。それほど独特の音なのです。

American T の法則

Rule1: Soft D の法則

Rule2: 子音の前は消える

Rule3: 文の終わりは消える

Rule4: Nの前では一時停止

Rule5: Nの後では完全消失

Rule One



Soft D の法則

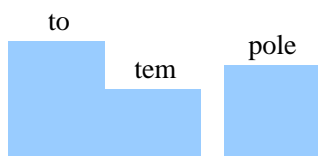


CD 3 Track 8

トータムポールをご存知ですか？カナダの有名な民芸彫刻ですね。ではそれを英語で発音するとどうでしょう？

totem pole

[tóutəm poul]



一番前に強勢が置かれます。今、CD の音を聞いて、おわかりになりましたか？ここに法則1がはっきりと出ているのです。

T は、ストレス(強勢)のある所ではハッキリした T のままですが、ストレスのない所ではもはや T ではなく、むしろ「軽い D (Soft D)」のような音に変化するのです。

Strong T

photographer
guitar
metallic
paternal
potential
rotation
utility
platoon

Soft D

photograph
Get it.
metal
pattern
Harry Potter
rotary
utilize
later